椿椿山展

つばき・ちんざん

軽妙淡麗な色彩と筆あと

TSUBAKI CHINZAN

2023年3月18日(土)——4月16日(日)

前期　3月18日(土)——4月2日(日)
後期　4月4日(火)——4月16日(日)

会期中に大幅な展示替えを行います。

開館時間　9時30分～17時（入館は16時30分まで）　休館日　月曜日
入館料　一般650円、高校・大学生450円、小・中学生200円　※土曜日は小中高校生は無料で観覧できます。※65歳以上・障がい者割引あり（要証明書）
主催　板橋区立美術館、東京新聞　特別協力　田原市博物館

板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM

《玉堂富貴・遊蝶・藻魚図》（3幅のうち中幅）　天保11年（1840）　泉屋博古館　前期展示

椿椿山展
つばき・ちんざん
軽妙淡麗な色彩と筆あと
TSUBAKI CHINZAN
2023年3月18日(土)——4月16日(日)
前期　3月18日(土)——4月2日(日)
後期　4月4日(火)——4月16日(日)
会期中に大幅な展示替えを行います。
開館時間　9時30分～17時（入館は16時30分まで）　休館日　月曜日
入館料　一般650円、高校・大学生450円、小・中学生200円　※土曜日は小中高校生は無料で観覧できます。※65歳以上・障がい者割引あり（要証明書）
主催　板橋区立美術館、東京新聞　特別協力　田原市博物館
板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM

《久能山真景図》　天保8年（1837）　山種美術館　◎重要文化財　後期展示

つばきちんざんってどんな人？

椿

椿山（つばきちんざん）（1801～1854）は、江戸時代後期を代表する文人画家の一人です。江戸に生まれ、はじめは幕府の下級役人を勤めながら絵師の金子金陵（かねこきんりょう）に師事し、のちに渡辺崋山（わたなべかざん）に学びました。

当時江戸では、異国への関心の高まりや浮世絵版画の流行などによって、幅広いジャンルの作品が生み出されていました。このような中、椿山は花鳥画の制作に力を注ぎ、人気を得ていきます。みずみずしい色彩と軽やかな筆致による作品は、多くの人に親しまれました。また、肖像画も得意とし、崋山から陰影法などを採り入れた表現を受け継ぎつつ、独自に発展させていきました。

これまで「崋山の弟子」という視点で語られることの多かった椿山ですが、門人で鑑定家でもあった浅野（あさの）梅堂（ばいどう）は「抱一の画才、文晁の画学、応挙の画趣、崋山の画格みな曠世（こうせい）の絶藝なり。これを集大成して韻致（いんち）の妙（みょう）を得たるものは椿山翁なり」と高く評価しました。

本展覧会は、崋山というビッグネームに隠れていた椿山を、関東で初めて本格的に取り上げます。重要文化財に指定されている代表作品なども紹介し、その全貌に迫ります。

椿山と言えば…ずばり花鳥画です

《名花十友図》弘化4年（1847）
田原市博物館　前期展示

《四愛図》天保13年（1842）
栃木県立博物館　後期展示

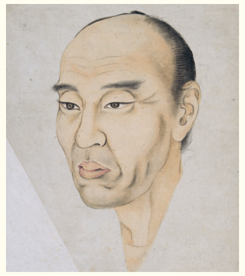
《歳寒三友図屏風》嘉永4年（1851）個人蔵　前期展示

椿山は、江戸だけでなく地方からも絵の注文を受け、その名は広く知られていました。現存する作品の中で花鳥画の数は圧倒的に多く、人気の高さがうかがえます。写生に基づきリアルな質感表現を追求したものから、形にとらわれない大胆な筆づかいのものまで、その画業を通して様々な作品を制作しました。

「江戸に行ったら椿山に描いてもらえ」
——岡山藩の儒官が倉敷の豪商へこのように勧めたと伝わる

肖像画も得意、とことんこだわります！

《渡辺崋山像稿》天保14年（1843）
個人蔵　◎重要文化財


《渡辺崋山像稿》天保14～嘉永6年（1843～53）頃　個人蔵　◎重要文化財

12年かけてようやく完成

《渡辺崋山像》嘉永6年（1853）
田原市博物館　◎重要文化財

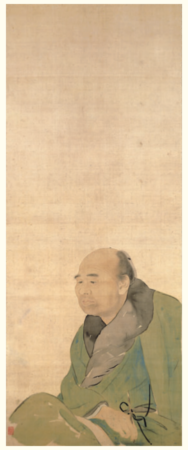
肖像画のジャンルにも新境地を開きました。画稿と完成作品を比較すると、ありのままを写し取るだけでなく、人となりをどのように表現するか試行錯誤していた様子が見られます。

《蘭竹図屏風》（左隻）嘉永5年（1852）大倉集古館　○重要美術品　後期展示

《君子長命図》天保8年（1837）
板橋区立美術館

《蔬果之図》嘉永2年（1849）
田原市博物館　前期展示

《八百延年図》天保14年（1843）
田原市博物館　後期展示


《高久靄厓像》江戸時代（19世紀）
個人蔵　◎重要文化財　前期展示
画像提供：東京国立博物館
Image: TNM Image Archives

まじめすぎる男

椿二山《椿椿山像》明治時代　田原市博物館

椿山はまじめで努力家、温和な人柄だったとされています。その性格は「飯少なく、遊少なく、眠少なく、言葉少なく、磨墨少なく、着筆少なく、彩色少なく、酒を飲まず、女に近付かず、煙草を喫せず、故に十少と称す」のように例えられたエピソードからもうかがえます。また、誠実で忠孝に篤く、師の崋山が「蛮社の獄」で捕まった際は救済のため奔走しました。このような椿山の人物像に迫る資料類も展示します。

すぐにメモ！好奇心旺盛

《山海奇賞図稿》（部分）文政10年（1827）巴江神社　後期展示

《山海奇賞図巻》（部分）文政13年（1830）静岡県立美術館　後期展示

気になるものはすぐに写し取っていたようです。絵画はもちろんのこと、武具や茶器など、様々なものを縮図として描きました。また、旅行に出かけた際も道中の風景をスケッチし、それをもとにした作品も制作しました。

関連イベント

記念講演会
「私、つばきちんざん（椿椿山）と申します
——江戸後期の花鳥画家の生涯と芸術」
3月26日（日）14時00分～15時30分
講師：増山禎之氏（田原市博物館館長）

トークイベント
「画家と関東のパトロン」
4月8日（土）13時00分～16時15分
講師：
橋本慎司氏（栃木県立美術館技幹兼学芸課長）
末武さとみ氏（佐野市立吉澤記念美術館学芸員）
太田佳鈴氏（群馬県立近代美術館学芸員）
印田由貴子（当館学芸員）
＊詳細については当館HPをご覧ください。

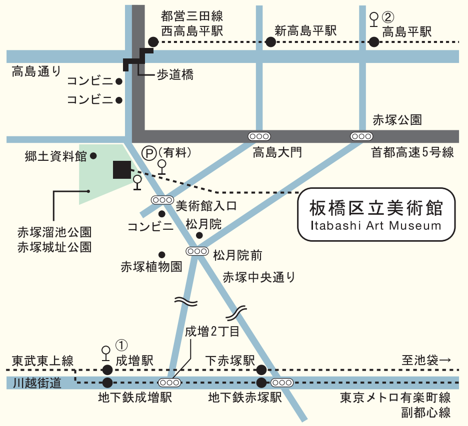
いずれも参加費無料、定員40名、
要事前電話申込
申込方法：3月11日（土）9時00分より電話にて先着順、1申込につき2名まで、月曜休館
申込先：03-3979-3251
＊そのほかのイベントについては当館HP、SNSをご確認またはお電話にてお問合せください。

次回予告

4月29日（土）～6月4日（日）
生誕110年　佐藤太清展　水の心象

6月24日（土）～8月13日（日）
2023イタリア・ボローニャ国際絵本原画展

ご来館にあたっては新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご理解とご協力をお願いいたします。状況により記載内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。



【交通案内】

徒歩　都営三田線「西高島平駅」下車 約14分
路線バス　1時間に1～2本程度　所要時間約10分
①東武東上線「成増駅」北口2番のりば
「増17 区立美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車
＊東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」（5番出口）も利用可。
②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば
「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行き「区立美術館」下車
タクシー　東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分

板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM
東京都板橋区赤塚5-34-27　tel:03-3979-3251　https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/

TSUBAKI CHINZAN

TSUBAKI CHINZAN